

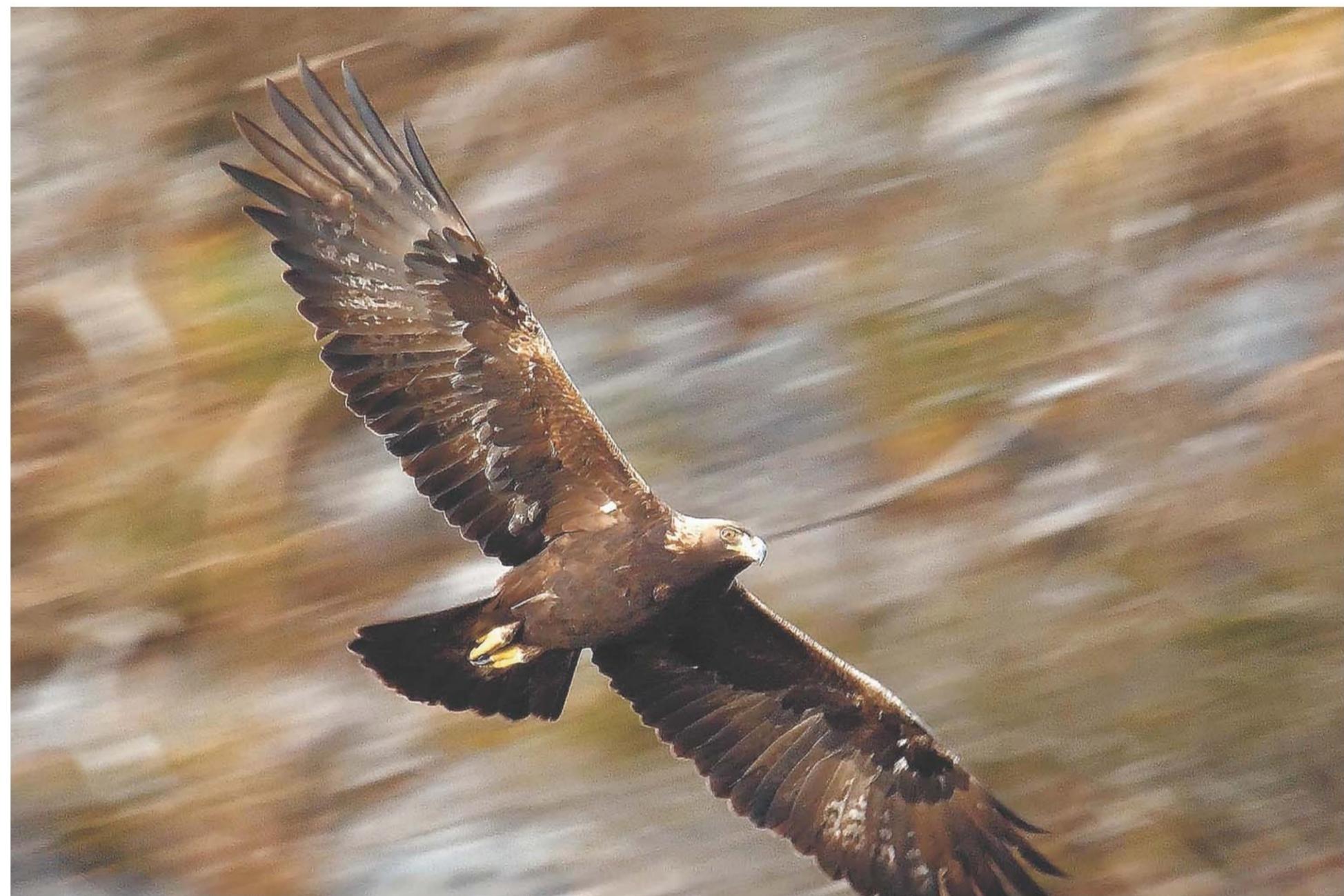
12月 イヌワシ



9

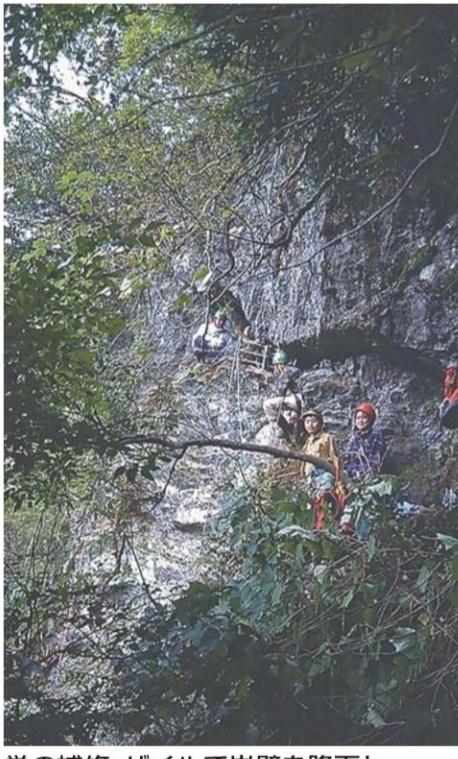
風を切り裂き、飛行する姿には圧倒的な存在感がある
逃れないかと、わずかな期待を抱いて岩壁の下を探しまわったが、やはり落ちはしなかった。
2回目は10年後の2011年の4月だった。やはり雛が30日齢を過ぎた頃、またしてもイヌワシの巣の上にクマがいた。クマは食べかけのイヌワシの雛の死体をくわえて持ち上げた。そしてまた食べ始めた。雛を食べ終えると、クマはイヌワシの巣の上に寝転んで昼寝を始めた。こんなところで熟睡している。しばらく眠った後、今度は巣から出る岩壁を降り始めた。足場となる岩の出っ張りを後ろ脚でさくらしながら、両手は岩の裂け目に生えた細い木の根元をつかんでいる。手の代わりに口で細い木をくわえて、両手を放す曲芸もやつてのける。どうにかこうにか滑落せずに岩壁を降りて去つて行った。

自然のままとは言え、めったに繁殖に成功しないイヌワシの雛を食べてしまうことは…。
クマには悪いが、クマが登れないように巣を改修することにした。これは環境省のイヌワシ保護増殖事業である。1回目は1995年4月で、イヌワシの雛はふ化後30日ほどたって二つトリくらいの大きさになっていた。約500m離れた地元から巣を見ると、様子がいつもと違う。望遠鏡を覗くと巣の上にクマがいた。とにかくクマを追い払おうと、大急いで沢を越え尾根を登つて巣の近くに到着した。すでにクマは巣のある岩壁を降りて対岸の斜面を歩いていた。雛が巣から軽け落ちてクマから



風を切り裂き、飛行する姿には圧倒的な存在感がある

見守っていた雛、クマに襲われ…



巣の補修。ザイルで岩壁を降下し、人工巣を造った

自然のままとは言え、めったに繁殖に成功しないイヌワシの雛を食べてしまうことは…。
クマには悪いが、クマが登れないように巣を改修することにした。これは環境省のイヌワシ保護増殖事業である。1回目は1995年4月で、イヌワシの雛はふ化後30日ほどたって二つトリくらいの大きさになっていた。約500m離れた地元から巣を見ると、様子がいつもと違う。望遠鏡を覗くと巣の上にクマがいた。とにかくクマを追い払おうと、大急いで沢を越え尾根を登つて巣の近くに到着した。すでにクマは巣のある岩壁を降りて対岸の斜面を歩いていた。雛が巣から軽け落ちてクマから

逃れられないかと、わずかな期待を抱いて岩壁の下を探しまわったが、やはり落ちはしなかった。
2回目は10年後の2011年の4月だった。やはり雛が30日齢を過ぎた頃、またしてもイヌワシの巣の上にクマがいた。クマは食べかけのイヌワシの雛の死体をくわえて持ち上げた。そしてまた食べ始めた。雛を食べ終えると、クマはイヌワシの巣の上に寝転んで昼寝を始めた。こんなところで熟睡している。しばらく眠った後、今度は巣から出る岩壁を降り始めた。足場となる岩の出っ張りを後ろ脚でさくらながら、両手は岩の裂け目に生えた細い木の根元をつかんでいる。手の代わりに口で細い木をくわえて、両手を放す曲芸もやつてのける。どうにかこうにか滑落せずに岩壁を降りて去つて行った。

自然のままとは言え、めったに繁殖に成功しないイヌワシの雛を食べてしまうことは…。
クマには悪いが、クマが登れないように巣を改修することにした。これは環境省のイヌワシ保護増殖事業である。1回目は1995年4月で、イヌワシの雛はふ化後30日ほどたって二つトリくらいの大きさになっていた。約500m離れた地元から巣を見ると、様子がいつもと違う。望遠鏡を覗くと巣の上にクマがいた。とにかくクマを追い払おうと、大急いで沢を越え尾根を登つて巣の近くに到着した。すでにクマは巣のある岩壁を降りて対岸の斜面を歩いていた。雛が巣から軽け落ちてクマから



イヌワシの巣の中で、雛を食べるツキノワグマ(2011年4月)



すどう・かずなり 1961年、京都府知久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に撮影に取り組む。米原市在住。写真集『Golden Eagle イヌワシ』(平凡社)など。